

積貞棟 1・8 階

(1 階：外来がん診療部、外来化学療法室)

(8 階：放射線治療科、腫瘍内科、乳腺外科、共通病床)

1. 看護単位の概要

外来がん診療部診察室 13 室 処置室 外来化学療法室 29 床

病 床 数 37 床 放射線治療科 14 床 腫瘍内科 18 床 乳腺外科 2 床 共通 3 床

2. 部署の特徴

当部署の特徴は、入院・外来を一元化した看護体制を行い、看護師のローテーションにより、継続的で一貫した専門性の高い看護を提供できる点にある。

1) 病棟

放射線治療科は、様々ながん腫に対する放射線療法を受ける患者が入院している。体幹や頭部に対する定位放射線治療、正常組織を避けながら腫瘍に十分な線量を照射できる強度変調放射線治療、さらに肺がん・肝臓がん・膵臓がんには動体追尾放射線療法を行い、腫瘍制御率の向上と合併症の軽減を図っている。また、食道がんに対する根治的放射線治療も積極的に実施しており、治療に伴う摂食障害に対する専門的な看護を提供している。いずれの治療においても、治療計画に合わせた副作用モニタリングやセルフケア指導を行い、治療が完遂できるよう様々な症状に対して看護を実践している。

腫瘍内科は、消化器がんを中心に、神経内分泌腫瘍や原発不明がんなどの希少がんに対する化学療法を受ける患者が入院している。近年の外来化学療法への推進に伴い、初回治療のみ入院で実施し、急性期有害事象の評価後、外来治療へと移行している。IV ナースレベルⅣの認定を受けた看護師が中心となり、安全かつ確実な抗悪性腫瘍薬の投与と、きめ細かな副作用症状のモニタリングとセルフケア支援を行っている。また、上部内視鏡的治療や、治験・臨床試験も実施しており、多岐にわたってがんの集学的治療が行われている。終末期医療においては、早期からの ACP にも取り組み、多職種連携のもと、患者・家族の価値観を尊重しながら病軌を歩む患者とその家族に寄り添い、意思決定を支援している。

乳腺外科は、乳がんのため手術前後の初回化学療法を受ける患者が入院している。

2) 外来

外来がん診療部の処置室では、各種がん診療科と連携し、輸液療法、各種検査、輸血、胸腔・腹腔穿刺、支持療法などの医療処置を実施している。また外来で行われる IC に同席し、患者に寄り添った意思決定支援に努めている。

外来化学療法室では、1 日平均 60 件前後の化学療法を実施し、IV ナースレベルⅣの資格を持つ看護師が安全な治療提供と患者支援を行っている。患者が外来での治療を安全に受けつつ、自宅での療養に必要な指導や援助を受けることが出来るように、多職種や他部門とも連携をとりながら看護を実践している。

がんゲノム特別外来では、がん看護専門看護師ががん遺伝子パネル検査を受ける患者に対する説明や意思決定支援、結果説明後のフォローなどの看護を実践している。